大会レポート
全日本大会
2004年3月28日

松澤・番場/全日本を制す

2003 年度の全日本大会を制したのは松澤俊行と番場洋子。
好天にめぐまれた秋吉台に設定された、緻密でダイナミックなコース。この厳しいレースを制した2人に全日本のレースを語ってもらった。

全日本オリエンテーリング大会
2004年3月28日（土）
山口県秋吉台

全日本大会を制した番場洋子と松澤俊行

全日本大会女子選手権結果（W21E）

1	番場洋子	1:27:45	Team 白樺
2	田島利佳	1:29:19	みちの会
3	塩田美佐	1:31:43	みちの会
4	落合志保子	1:33:20	OLC ルーパー
5	金子恵美	1:36:53	上尾 OLC
6	三好暢子	1:39:26	上尾 OLC
7	渡辺円香	1:39:43	ES 関東 C
8	元木友子	1:39:57	Team 白樺
9	加納尚子	1:40:36	Team Zebra
10	姫野祐子	1:41:24	東北大 OLC

全日本大会男子選手権結果（M21E）

1	松澤俊行	1:43:31	三河 OLC
2	村越 真	1:44:52	静岡 OLC
3	山口大助	1:46:28	ES 関東 C
4	鹿島田浩二	1:48:45	渋谷で走る会
5	紺野俊介	1:51:01	横浜 OLC
6	加賀屋博文	1:51:56	渋谷で走る会
7	加藤弘之	1:52:11	ES 関東 C
8	高橋善徳	1:52:25	ときわ走林会
9	柳下 大	1:52:42	Forester
10	篠原岳夫	1:56:02	渋谷で走る会

番場洋子・全日本大会を語る

「秋吉台」というテレインが、私が一年生で初めてのインカレというお祭りを体験した、非常に楽しい思い出ばかりのテレインだったため、前日晩から、ワクワクしてしまい、当日会場でも、楽しくて、懐かしくて、走れることが嬉しくて、緊張感を取り戻すのが大変でした。

目標としては、順位は気にせず、ミスの少ない力を出し切ったレースをして、巡航速度が現状どれぐらいであるかを把握したいと思ってのぞみました。

レースは、ループするところで、別の方向に行ってしまったり、森林の部分で典型的なミスをしてしまったりと、いいレースとは言い難い内容でしたが、ストレスがないテレインと、非常に前向きな精神状態だったおかげで、ゴールまで集中して走ることが出来ました。

オープン地帯から森林部分での切り替えは、インカレの時も失敗していて、今回こそはと思っていたのですが、今回もまた6年前と全く同じパターンのミスをしてしまいました。これは、今回のレースで非常に悔しかった部分の１つです。

レースが終わったときは、やってしまったなぁ、という感じで、全く優勝できたという感覚はありませんでした。

大学一年生の時に見た秋吉台は、プランに入れた目標物（独立樹、コントロールなど）がよく見えて面白いと思った覚えがあります。

今回は、オープンエリアでは地図のどこを走っているか、よく分かって、これもまた面白かったです。パーク O みたいな気分でした。見えるところまでが遠いのでしんどかったです。

今回の結果は、沢山の運を含んだものだと思うので、次は優勝すべくして優勝できる選手になるよう頑張りたいです。

（番場洋子）

松澤俊行・全日本を語る

ここ何年かは『全日本で差を付けて勝てないようではその先はない』というような、自分を自分で追い詰めるような気持ちを抱いてレースを迎えており、そのことで力を出し切れずにいたような気がします。今回は逆に『ここで力を出し切れば、その先の世界を見ることができる』という気持ちで臨みました。そして自分の良い面・悪い面をさらけ出し、納得してゴールしました。

優勝という結果もさることがながら、『自分を表現できた』ことに喜びを感じます。種目の多様化などの要因から、『全日本制覇→即代表決定』ということはなくなりました。世界選手権代表選考はまだまだ予断を許しません。まず、全日本大会以上に自分を表現して、そして選考を通りたいと考えています。

昨年から大学生になり、環境の変化のなか結果が残せない時期が続きました。だからこそ、今回はぜひ優勝したかったので結果には満足しています。ただ、強敵が多く、『狙って勝てる』状態ではないと思っていました。まず『自分の力を出し切る』ために準備を重ねていました。

昨年の平尾台大会ではカルスト地形への対応に苦しみました。そのことで危機感を持って準備する事が出来ました。全日本大会 3 日前の朝、目を覚ました直後緊張で体が震えたのを覚えています。『力が湧き出てこようとしている証拠』と言い聞かせました。

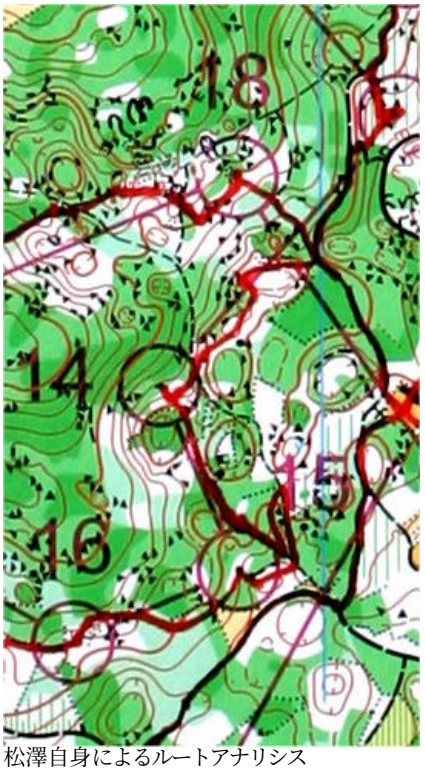
もちろん全日本の前日に平尾台に行けたのも大きかったです。

早大 OC 大会の時、優勝した高橋選手とは差が前半で付いているなど、自分の課題は序盤でいかにリズムに乗って行けるか。集中して駆け抜けることを意識しました。

序盤を快調にしのいでいる事が確認でき、またスピードのある新さんが近くにいる事でペースが維持しやすくなると考えて気分的に乗ることが出来ました。4 番と 7 番でアタックミスしたけど、新さんの背中が見えていたので、気持ちを維持できました。

15 番は差し掛かる前から注意が必要だと思いました。道回りも見えたけど勝負とばかりに直進しました。ヤブを抜けたところで競技用地図にない伐採が見えて、現在地に自信がなくなり、そばを紺野選手が走って行くのが見えましたが、アタックしていくのか 16 番へ向かって脱出しているのかさえも分かりませんでした。コントロールを見落としたかもと、北へ 180 度引き返し、見えた岩を 1 周したりして探したが、道に出たところでようやくリロケート。気持ちが萎えて疲れがどっと出てもおかしくない状況でしたが、気持ちを切り替えられました。結果を見るとここで村越選手に逆転されていました。今後に向けてナビゲーションの質を上げなければいけないことは確かですが、粘りとスタミナで再逆転して勝ち取った勝利にはそれなりの価値を感じています。

（松澤俊行）



松澤自身によるルートアナリシス
レースのポイントは、広大なオープン地帯でのナビから見通しの利かない森林地帯でのナビにどう切り替えるか。

カルスト台地を走る松澤俊行　（写真は平尾台大会のもの）